



毎月十五日発行 所 社 会 像 大 宗 像 定価 一年送料共 1000円

神具・装束 株式会社 井筒 福岡市博多区東公園二一三(一) 電話(092)611-1945

第八十代大宮司

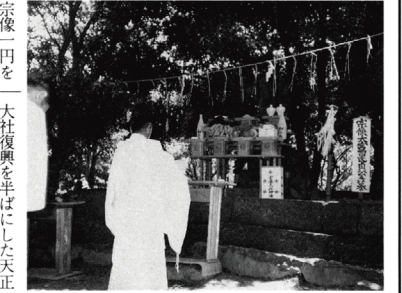
宗像氏貞公墓前祭



宗像大社中興の英主と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る五月二十四日、宗像郡玄海町上八の氏貞公墓前、当大社司祭のもと厳肅に執り行われた。

家臣の墓地、参道の除草、清掃作業が行われた。午前十時三十分、掃き清められた清楚な墓場に於て、氏貞公の墓地を永く管理し、これられた地元福祉の塾村任職、当大社本殿司、占部家関係者、前町公民館長長野勇氏を始め大社の方々(当主占部満、や同地区の縁の方々の手で、氏貞公の墓地とこれに続く墓前には玄界灘の新鮮な海

の幸、季節の山、野の幸がお供えされ、修祓の後、氏貞公の偉業を敬仰すると共に、御霊の安らかならんことを祈る祭詞が奏上され、続いて参列者が各々玉串を捧げて墓前祭を滞りなく終了した。 祭典終了後、墓地の一角で直会が催され、占部家にて用意された御馳走をいただきながら、一回氏貞公の遺徳を偲んで、一刻を過ごした。 最近この氏貞公墓石を覆う、堂宇の建物が承福寺により計画されていた。以前は墓地の傍らに松の大樹が生い茂り、墓石を覆う傘の役目を果たしてきたものの、数年前この松が枯れ倒れ、



大社復興を半ばにした天正十四年(一五八〇)病に倒れ、三月四日居城の馬ヶ嶽城で病没、志半ばの四十二才で悲運の生涯を閉じられた。遺体は家臣占部尚持の子、八郎貞保によって上八の安延山承福寺に移され葬られた。 宿命を「即心院殿一以罪恕大居士」と諡し、墓地は承福寺の西二百メートル離れた門前乙尾の丘陵上に

米の自由化に思う

関税貿易一般協定(ガット)の新多角的貿易交渉(ウルクアイラウンド)が、ミュンヘンサミット前の決着をめぐり、愈々大詰めを迎えようとしている。昨年十二月二十日、ドンケル事務局長が提示した最終合意案に対し、政府は一時、受けいれざるを得ないと判断に傾いたものの、結局アメリカとECの絡みを横断しながら、「米市場解放」につながる輸入障壁の例外なき関税化には応じない態度を固めた。だが、今後の推移によっては、いかなる局面が展開されるかを離せない。この政府の対応を軸に、侃々諤々、米自由化への賛否両論が渦を巻いている。 こうした論争の中で発表されたのが、名もなき国民の声(三月二十八日、日本世論調査会)。それによると、例外なき関税化に反対が五三%、賛成四一%。反対者の六一%が、自由化は米作り農家の打撃が大きいと見る。更に、自由化による農山村への影響についての質問に対し、三九%がかなり大きな打撃、二六%が、離農が増え農山村全体が壊滅的打撃、両者合わせて、六五%が農家の崩壊を予見していることが、見逃すことの出発点でない、極めて重大な問題といわねばならない。一方、賛成派

は、外国の安い米が入れば、消費者の利益になるが四七%で最高。結局、大半の日本人が、米の自由化によって、父祖伝来の農が取り返しのつかない事態に陥るという危機感に脅えている。ところが、この世論調査によって判る。 ところで、日毎、米との深い絆の中で、祭りを通して農を祈り、信仰、伝統、文化を耕やし続けている神人は、この米自由化をいかに受けとめるべきであろうか。ウルクアイラウンド農業交渉が暗礁にのりあけ、遅々として進捗しない背景には、世界各国の農業観の差異が加わっている。つまり、米を工業製品同様に単なる輸出品と考えるか、それとも、国家社会存立の基盤と見るか、物差しを置きかたによって天地の距りがある。米なくして日本はない。秀れて尊貴な精神の活みから発した米は、日本人の食いてくべき、生命の糧であるばかりでなく、日本人の魂の原素、祭りの主位、さて、やや蛇足を加えることにはなるが、飯食、米の自由化を阻止し得たとしても、気になることは、それだけで、農崩壊の危機を救うことが出来るかという点である。農村はいま、減反、過疎、高齢化、嫁不足、後継者難に喘いでいる。例えば、男子基幹的農業従事者の七六%が五十歳以上層。あと十年たてば、四分の三が勇退すると予想される。頼みの綱の後継者が、なぜか大地に背をむいて都市砂漠に群集する。

暑中御見舞申し上げます

出光 出光興産株式会社 取締役 沖 禎一郎 福岡市中央区大名2丁目8番26号 TEL 092-761-1831

### 第十六回 宗像大社

## 小倉百人一首かるた大会

お正月の代表的な遊戯、カルタ取りを現代的な競技として、その技を競う第十六回宗像大社小倉百人一首かるた大会が、七月十四日、二十一日の両日、当大社講式殿、清見館の三宮で、九州かるた協会、後援会主催で開かれた。



援会全日本かるた協会が六月十四日、二十一日の両日、当大社講式殿、清見館の三宮で、九州かるた協会、後援会主催で開かれた。この大会は、我が国の伝統文化維持と青少年の情操教育の一助に毎年開催されており、本年も小学生から九十歳近くのおおあちさん迄あらゆる年齢層の選手が参加、各会場で吟者の上句の吟詠を正にするや否や下句の札を取る、数分の一秒を競う熱戦が終日繰り広げられた。

この大会は、我が国の伝統文化維持と青少年の情操教育の一助に毎年開催されており、本年も小学生から九十歳近くのおおあちさん迄あらゆる年齢層の選手が参加、各会場で吟者の上句の吟詠を正にするや否や下句の札を取る、数分の一秒を競う熱戦が終日繰り広げられた。

記の通りである。  
 ◇A級(四段以上)  
 優勝 片瀬 亨子 学習院  
 二位 荒井 孝子 東京都  
 三位 小松 洋樹 富野恵  
 ◇B級(三・二段)  
 優勝 沢江 裕子 森田尚  
 二位 本田 実美 熊本第  
 三位 橋本 智子 天分息  
 ◇C級(初段)  
 優勝 田嶋 絵美 熊本第  
 二位 河崎 美佐 筑紫女  
 三位 中村 諭子 熊本西  
 ◇D級・高校生以上の部  
 優勝 細川 玲子 北九州  
 二位 大野 真美 筑紫女  
 三位 米満 達也 鹿児島  
 ◇E級・一般の部  
 優勝 高田由美子 長崎県  
 二位 中嶋 道子 福岡市  
 三位 藤本美子子 行橋市  
 ◇F級入賞  
 優勝 山内陽介 美和台小  
 二位 洗絵里 (須恵第二) 諫  
 光栄 (咸宜小) 渡部翠 須  
 惠東中 山口和子 (須恵東  
 中) 学園中

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

一位 原岡梨穂子 宇美東  
 二位 松尾 直美 和白丘  
 三位 河津 基 東部中  
 小学生的部  
 優勝 中村 浩子 文閣小  
 二位 深蔵 美希 豊田小  
 三位 團雄 一郎 福岡南  
 二位 三環子 咸宜小  
 三位 世利 陽子 井野小  
 松浦 彩子 安田小  
 田田 信也 宇美東  
 岩田 紀子 安田小  
 高田由美子 長崎県  
 中嶋 道子 福岡市  
 藤本美子子 行橋市  
 高田えり子 長崎県  
 小学生的部  
 優勝 卯野 文教 咸宜小  
 二位 泊岩 隆 宇美小  
 三位 田沼 琴美 井野小  
 戸次重依子 美和台  
 小

### 宗像大社歌会詠草

第三七三回  
 中村 吾郎 選  
 毎月末日、切

福岡東 桜井 ツ子  
 宵々に細りて東へ移りゆく  
 半月は明けの星と並びぬ  
 (評) 作者は長い闘病生活  
 の人知れば猶も出来よ  
 う。移りゆく宵々の月の細  
 りの様を写して思いを誘う。

福岡東 清原 絹代  
 火の色に海紅豆の花さきさ  
 かる戦死の報の届きし時も  
 (評) 届いたと言うからに  
 は戦死者は身内の人であろ  
 う。その時の海紅豆の色は  
 火の色として作者の目に  
 池田 小田しめ  
 みどり濃き森にひとつを透  
 げしと春の落葉の散り敷  
 きてあり  
 (評) 春の落葉の散り敷く  
 を、ひとつ事逐げしと見る  
 目に独自性がある。これも  
 又自然の美しさであろう。

田熊 鷹頭かつ代  
 行きすりの見知らぬひとと  
 声あはせたわに咲けるあ  
 ぢさるを賞つ  
 自由ヶ丘 細川 絹子  
 長かりし手術終へ来て眠り  
 ある夫見し利那涙こぼるる  
 吉留 高山 信子  
 子のくれし万年筆に二十年  
 思いを書きて古希となりた  
 大島 河野 英子  
 白糸の瀧の坂道登り行く足  
 許の豊けき片を踏みつつ  
 日里 後藤 君代  
 ひき潮に海濱ぬれてはりつ  
 ける浜を鴉の群移りゆく  
 大島 目原 節子  
 彩深く咲き盛りたる紫陽花  
 の影描く池面舞のゆらしつ  
 福岡 本松 宣子  
 六月に入りて替へたる竹の  
 花器に菖蒲一本入れたた  
 しむ  
 武丸 中村さつき  
 靴の紐解けしと養母結びや  
 る路の紐がど心配りて

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ーターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほつりほつ  
 りと  
 原町 八波 五月  
 八十歳の手足の重さしまし  
 して胸にもりし思ひの重

八幡東 大塚まゆ子  
 高梁川豊けき川面にいさぎ  
 よきボート練習の掛さきこ  
 ゆ  
 吉留 白木うめ  
 満開の桜の下にす終へ立  
 たむとするとき風に花散る  
 自由ヶ丘 津江富美子  
 駒止の門をすきれば草を食  
 む親馬子馬おちこに見ゆ  
 城南ヶ丘 中間日出子  
 風邪いえず夫は食事をなし  
 終えて食の進むを感謝する  
 といふ  
 徳重 石松や好子  
 梅雨帯えに又出して着るセ  
 ターに入れて間もなき虫よ  
 けの香ふ  
 滋賀 岩瀬 福尼  
 菊作り賞められる程よく育  
 ち秋の展示会無上に乗し  
 池田 小田いせ  
 嫁病めば一度の主婚すべ  
 なきか立ちし厨に心重たき  
 赤間ヶ丘 松本 澄子  
 よく育ち今年も蜜柑に花つ  
 きて此の地に住みて二十年  
 過く  
 宮田 片山 朝子  
 海紅豆白夾竹桃の咲き競る  
 梅雨の晴れ間の目覚めすが  
 しき  
 河東 薄 かほる  
 終便にて帰省する子の着く  
 刻か炊飯器ごとりと炎消し  
 たる  
 朝町 古田千代子  
 日の暮れて電話かけくるひ  
 孫の話は長しほ

出雲大社参拝と隠岐を訪ねて

第三回 宗像大社氏子会研修旅行



第三回宗像大社氏子会研修旅行の出発式の様子。宗像大社前庭で、宗像大社氏子会役員と参加者約百二十名が集まり、出発式が行われた。

望者が相次いだため、急遽人員枠を広げ、総勢百二十名の参加者となった。研修旅行初日、午前八時、宗像大社よりバス二台にて出発。各地よりバス二台にて出雲、中国自動車道、国道五十四号線を走り、午後三時過ぎ出雲に入る。出雲立上り風上りの丘と呼ばれる古代出雲の史跡地帯に鎮座する八重垣神社参拝後、午後五時半、初日の宿、皆生温泉「松濤園」に到着。潮の香漂う温泉に身をゆだね、旅の疲れを癒した。

浦安舞「温習」を受講して

梅雨とは思えないような涼しい日々が続いた。六月二十四・二十五・二十六日の三日間、春秋の大祭を始め各祭典で巫女舞をして奉納する「浦安舞」のご指導を、日本音楽協会の長崎の多摩先生より受けた。



一年振りという事で受講させて頂く巫女一同、初日から緊張しておりました。一通り舞った後の「細かい所はまた必ず所があり、またか」とか形はなっていますが、なんとお形はなっています。先生の言葉をお聞き、ほっとするもの束の間、指先、足先、視線の方向等細かい動きを厳しく御指導頂き再び緊張

日がたつにつれ足腰に痛みを感じ出し、段々舞うことが苦痛になり出ました。が次第に形も整い、全体的な流れや、四人舞の御指導を受けさせて頂き、四人舞を揃えようと一生懸命になり、足腰の痛みを忘れる程でした。

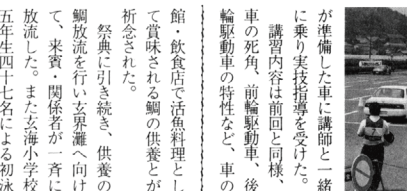
最終日には四人舞の総仕上げを行いました。本格的な夏の到来を目前に控えた七月一日、玄海町神楽の海岸に、同町海水浴場開催の海開きが行われ、祭典には関係者約百二十

玄海町の海開き

名が参列。午前十一時より当大社神職三名奉仕のもと水神祭が執り行われ、海水浴期間中の水難事故防止と魚処として若名を同町内旅

「限界状態から車の特性を学ぼう」と、第二回トヨタヤングドライバーズクリニック福岡

「限界状態から車の特性を学ぼう」と、第二回トヨタヤングドライバーズクリニック福岡が、福岡県トヨタ販売店グループ主催により、五月二十一日(木)、当大社正面大駐車場、第二駐車場に於て開催された。



社務日誌抄
六月一日 月次祭
六月二日 TVQ「みてみてQ」取材の為来社
六月三日 埼玉東松山歴史講座三十一名参拝
六月四日 宗像郡連族連合会役員会

参進、出光会長、山田祐宜にあわせ二礼四拍手一礼の出雲大社作法により拝礼、感激の内に一同出雲大社を後にした。正午、すべての日程を終え帰路につく。

山出張所長福本青磁氏外十四名参拝
出光興産(株)中央訓練所西村敏男氏来社
六月十四日 第十六回宗像大社小倉百人一首かるた大会
六月十五日 月次祭
六月十八日 佐賀県唐津神社総代五十名参拝
経団連副会長二変化成取締役会松野大輔氏、同総務部長江紀氏来社
大阪府羽曳野市長福谷剛藏氏外一名来社
山門郡山田中学校社会科見学一〇名来社
六月十九日 出光興産(株)製油所業務課長野村武美氏、同海上輸送協力会八社十名参拝
六月二十日 磯川書店社長長角春樹氏、朝サンタ・マリア協会の常務理事佐川廣治氏外十八名参拝
六月二十一日 第十六回宗像大社小倉百人一首かるた大会

暑中御見舞申し上げます
宗像支店
支店長 浦田 一光
TEL 0942-3612017
宗像市大字東郷九一八一
銀福支店
支店長 荒巻 猛
岡支店
支店長 吉里 勇
福岡中央銀行
支店長 島田 政雄
宗像市自由ヶ丘五九七五二
TEL 0942-3313322
宗像農業協同組合
組合長理事 安部 照生
宗像市大字東郷六六一一
TEL 0942-3614110
福岡県中央信用組合
支店長 羽田 徹
宗像市大字東郷九四四一四
TEL 0942-3612252

### 宗像大社歌会 俳句作品集 (三五)

ひかりヶ丘 南 風生  
竹の秋風の止まざる館跡  
藤 沢 井上 玄洋  
沖閉す露より寄する卯波か

若松 井手 清隆  
風に尾を立て抱卵の燕かな  
福間 森 清  
梅雨晴れや寶石を運る妻の顔

田熊 安部 ゆき  
葉に座して鳴く雨蛙天地か  
名古屋 小田 留子  
もどかしく幼紐解く世ちま

名古屋 小田 留子  
蟬織り風も光も音も呑み  
福岡中央 力丸 玄風  
とりとめしき暗抱ししめ梅雨

自由ヶ丘 細川 絹子  
つばくろの大口五つ寝具店  
滋賀 岩瀬 稲見  
曾孫とプール泳ぎ船し無

津屋崎 井浦 良介  
森林浴に入集い来る大つれ  
日の里 花山 いつ枝  
メロディーの誘子横断風薫



## (続) 浜の寄物

68

### 元寇の島・鷹島へ(一)

「亀の甲羅の文字」に天  
平の改元を思いながら、大  
量に漂着物のある久美浜を

歩いた。漂着物採取が目的  
でなかったため、カメラと  
ビデオをフルに活用したつ



星賀港より鷹島を見る

もりだが、カメラは残念な  
がら動いていなかった。  
函石遺跡を中心とする  
砂丘下の遺跡が今後調査さ  
れると大陸文化の影響や関  
係がはつきりとしてよ。

さて三月頃だったか、九  
州・沖縄水中考古学協会  
(麻田憲三会長、福岡市中  
央区天神四丁目五の二、チ  
サンマンション第二天神一  
一〇) に入会した。

二月間、長崎県北松浦郡・  
鷹島で、水中調査の技術向  
上と会員相互の親睦を兼ね  
るといふことで、潜りはダ  
メだが、かねてより元軍環  
滅の地を訪ねてみたいと思っ  
ていたので参加することに  
した。

二七日は時間の都合もあ  
り、四時頃に唐津に着き、  
以前、唐津でラフン製の丸  
木舟が発掘され、唐津城内

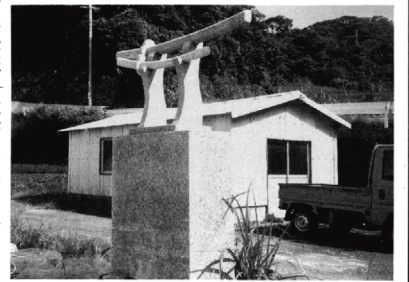
博物館に展示されていると  
聞き、城を訪ねて見たが、  
展示はされていなかった。  
藩政時代の武器や武器の中  
に、コヤシの殻で作られた  
た火縄銃用の火薬入れがあっ  
た、同じところにコヤシの  
殻を半分は割って三孔の  
一つを利用して、ひもを通  
し、根付けにモタマやウジ  
ルカンダ(豆科)が使われ  
ていた。全部で八個ほどあ  
ったが、その中にはヤシの殻  
の表面に彫刻をしたものも  
ある。これらは杯として使  
われたものであろうが、唐  
津周辺に漂着したものを加  
工したのであろうか。

翌二八日早朝、タクシー  
で星賀へ、そこからノエリ  
で十分、鷹島に着いた。水  
中考古学メンバーが宿泊し  
ているところに連絡をとり、  
迎える車が来て、鷹島町立  
歴史民族資料館へ着く。道  
具類を積み込んだり調査地の  
神崎海岸へ。

鷹島での水中考古学の調  
査は昭和五十五年(一九八  
〇)にはじまる。東海大学  
の茂在寅夫氏によって調査  
が行われ、今年には「鷹島  
海底遺跡」と題した床浪港  
改修工事の際の調査報告書

も、町教育委  
員会から刊行  
されているし  
改修工事や護  
岸工事の度に  
海底調査も行  
われている。  
昭和五十六  
(一九八一)  
七月には鷹島  
南岸全域、東  
は十上墓から  
西は雷鳴まで  
の約七・五キ  
ロメートル、  
汀線より沖合  
二〇メートルが元寇遺跡  
となった。この一帯の海底  
からは壺や碗類から磁器等  
の漁師の網にかかり、水中調  
査の発端ともなった神崎海  
岸でのバスバ文字のモンゴ  
ル軍印「管軍総把」の銅印  
等は、現在、鷹島町立歴史  
民俗資料館に展示されてい  
る。

弘安四年閏七月一日(太  
陽暦八月三日)台風が玄  
界沿岸を通過した。その時  
十四万、艦船四千以上が壊  
滅的な打撃を受けたのであ  
る。  
NHKスペシャル大モン  
ゴルもあと一回で最終であ  
る。第四回は七月一日に



放映された。モンゴルの繁  
栄と衰退であった。フビライ  
イ・カンのあくことのない  
野望そして首都大都(現在  
の北京は、世界の流通路  
のターミナルであった。そ  
の大都が最新のコンピュー  
タグラフィックによって再現  
されていた。従来のものは  
点と線で立体感がなかった  
が、彩色、しかも陰影まで  
つけられ、本物の姿に近い  
ものになってその技術の進  
歩に驚いた。  
フビライの野望はカラフ  
ト、日本、ペトナム、イン  
ドネシアと果てしなく、と  
めどもなく繰り上げられ  
ていくのである。

### 第六十一回神宮式年遷宮

#### 「お白石持行事」

#### 一日神領民参加募集

平成五年に履行されます  
第六十一回神宮式年遷宮に  
あたり、全国各地の神宮宗  
教者を対象に「お白石持行  
事」が明年行われます。  
当社でも参加募集を行  
っておりますので、氏子・宗  
教者の皆様で、ご希望の方  
は左記事項を参照の上お申  
し込み下さい。

お白石持行事と  
「一日神領民」

神宮の式年遷宮に際して  
は、古代からの神領民の歴  
史を持つ現在の伊勢市、二  
見町、御園村の人々が、神  
殿御遷宮の御敷地にお白石  
を奉持して敷き詰める「お  
白石持行事」を、伝統的行  
事として行ってきました。

これら旧神領民の人々は、  
神領地としての誇りを代々  
伝え、今でも「神領民」  
と称し、まごころこめて式  
年遷宮の奉祝行事を行って  
きました。

殊にお白石持行事は、各  
町村ごとに奉祝団を組織し  
て清らかな宮川の川原で  
お白石拾い(二日神領民の  
為のお白石も含む)、二見  
興玉神社への浜参宮、お白  
石持、行事終了後に神宮に  
お礼参りする上り参宮と、  
実に数百年間に亘る神領地あ  
げの伝統的行事です。

このようにお白石持は、  
昔から神領民のみ奉仕が許  
された行事でしたが、昭和  
四十八年の第六十回式年遷

一、お白石持行事の日程  
平成四年八月一日(日)  
平成五年八月一日(日)  
八月十七日(火)  
八月十九日(木)  
平成五年八月十二日(日)  
三十日(月)

二、奉祝参加費  
五、〇〇〇円  
尚伊勢・二見に於ける  
一日神領民の宿泊費は一  
〇、〇〇〇円の均一とす  
る(但し、土、日曜日の

三、申し込み受付期間  
平成四年八月十日まで  
四、申し込み方法  
所定の申し込み書に諸  
事項記入の上、参加費五  
〇〇〇円を添えてお申し  
込み下さい。

五、奉祝要項  
詳細不明な点、参加申  
し込み等のお問い合わせは、宗  
像大社氏子会事務局に願  
います。  
電話(〇五)六二一三三

六、奉祝当日  
内宮もしくは外宮の出  
発場所に集合し、指定さ  
れたお白石奉参車にて内  
宮もしくは外宮まで奉参  
その後お白石を新宮の御  
正殿敷地内に奉献す。  
以上

七、対し奉献の注意事項等  
については説明会を開催す  
る。  
\*受付場所については、後  
日指定

## 暑中御見舞申し上げます

玄海国定公園の中心…白砂青松の海水浴場…宗像大社からバス5分…神湊旅館組合

市外局番(0940)



魚屋旅館  
電話 〇九四〇一六二二二三五番

みなと荘  
電話 〇九四〇一六二二二三五番

玄海旅館  
電話 〇九四〇一六二二二〇〇番

高嘉旅館  
電話 〇九四〇一六二二二二二番

ニユ一干鳥荘  
電話 〇九四〇一六二二二〇六八番

大島屋旅館  
電話 〇九四〇一六二二二〇五五番

松風荘  
電話 〇九四〇一六二二二〇二二番

泉館旅館  
電話 〇九四〇一六二二二〇三五番

魚庄  
電話 〇九四〇一六二二二二三五番

川口屋旅館  
電話 〇九四〇一六二二二〇四八番

はま荘  
電話 〇九四〇一六二二二〇五〇〇番

神湊スカイホテル  
電話 〇九四〇一六二二二三八〇番